

**2/2-8#3** イエス(神によって与えられた王・救い主の御名)とインマヌエル(人によって呼ばれた王・救い主の御名):I.「彼女は男の子を産みます。あなたは彼の名をイエスと呼びなさい。彼は自分の民を、彼らの罪から救うからです」(マタイ1:21):  
**A** 「イエス」は、ヘブル語の名前「ヨシュア」と等しいギリシャ語です。それは「エホバ救い主」、あるいは「エホバの救い」を意味します。イエスは、私たちの救い主となられるエホバ、また私たちの救いとなられるエホバです。**ローマ10:12** ユダヤ人とギリシャ人の区別はありません。同じ主が、すべての者の主であって、彼を呼び求めるすべての者に、彼は豊かです。**13** なぜなら、「主の御名を呼び求める者はすべて救われる」からです。**B** イエスという名には、エホバという名が含まれています。エホバは、「私は『私はある』である」を意味し、それはエホバが自ら存在し、永遠に存在する永遠の方、過去おられ、現在おられ、将来、永遠にわたっておられる方であることを示します:**1** エホバは唯一「ある」方であり、彼ご自身以外の何にも依り頼まない方です。私たちは信仰の靈を活用して、「彼はある」ことを信じ、私たちは「ない」ことを信じなければなりません。彼はあらゆることでただひとりの方、唯一の方であり、私たちはあらゆることで無です。**2** 彼は「私はある」として、すべてを含む方、すべての積極的な事物の実際、彼の民が必要とするすべての実際です。**3** 私たち信者は、金額欄が空白の署名入り小切手を持っており、必要なだけそれに書き込むことができると言うことができます。光、命、力、知恵、聖、義など、私たちが必要とするものは何であれ、イエスがそれです。私たちが必要とするすべてが、イエスという御名の中に見いだされます。**C** イエスは私たちのヨシュア、すなわち、私たちを安息の中へともたらす方です。その安息は、私たちにとって良き地である彼ご自身です。**D** 主の御名、すなわち彼のパースンは、すべてを含む複合の靈です。**E** イエスの御名は、あらゆる名にまさります:**ピリオド2:9** それゆえに、神もまた、彼を高く引き上げ、そして、あらゆる名にまさる名を彼に与えられました。**10** それは、天にあるもの、地上にあるもの、地下にあるものが、イエスの御名の中で、すべてひざをかがめるためであり、**1** イエスの御名は、私たちがその中へと信じるためのものです。**2** イエスの御名は、私たちがその中へとバプテスマされるためのものです。**3** イエスの御名は、私たちが救われるためのものです。**4** イエスの御名は、私たちがいやされるためのものです。**5** イエスの御名は、私たちが洗われ、聖別され、

義とされるためのものです。**6** イエスの御名は、私たちが呼び求めるためのものです。**7** その靈は、私たちが呼吸する天の空気です。私たちは靈を活用して主の御名を呼び求めることによって、その靈を吸い込み、それによってその靈を受けます。**F** 主の御名を呼び求める目的は、以下のとおりです:**1** 救われる。**2** 悩み、困難、悲しみ、苦痛から救い出される。**3** 主の慈愛、あわれみにあずかる。**4** 主の救いにあずかる。**5** その靈を受ける。**6** 満足のために靈の水を飲み、靈の食物を食べる。**7** 主の豊富を享受する。**8** 自らを奮い立たせる。**9** イエスの御名は、私たちがその中で祈るためにあります。**10** イエスの御名は、私たちがその中へと集められるためのものです。**11** イエスの御名は、私たちが悪鬼どもを追い出すためのものです。**12** イエスの御名は、私たちが大胆に語るためのものです。**G** サタンはイエスの御名を憎んでいます:**1** サタンは人々を利用してイエスの御名を攻撃します。**2** 宗教家たちはイエスの御名を攻撃し、信者たちがその名によって宣べ伝えたり教えたりすることを禁じました。**3** 使徒たちは迫害された時、イエスの御名のために辱められるにふさわしい者とされたことを喜びました。**H** 主イエスがヒラデルヒヤの勝利者たちを称賛したのは、彼らが彼の御名を否まなかつたからです:**1** 回復された召会は、主イエス・キリスト以外のすべての名を捨てて、絶対的に主に属しました。**2** 主以外の名を取ることによって召会を命名することは、靈的な淫行です。召会は、キリストに婚約させられた清純な処女として、自分の夫以外の名を持つべきではありません。**II.** 「『見よ、処女が身ごもって男の子を産む。人々は彼の名をインマヌエルと呼ぶ』(インマヌエルは、神われらと共にいますと訳される)」(マタイ1:23):  
**A** イエスは神によって与えられた王・救い主の御名でした。インマヌエルは人によって呼ばれた王・救い主の御名でした。**B** マタイによる福音書はインマヌエル、すなわち、肉体と成って私たちと共にいます神についての書です。**C** インマヌエルはすべてを含んでいます:**1** 彼は、まず私たちの救い主であり、それから、私たちの贖い主であり、それから、私たちに命を与える方であり、それから、すべてを含む、内住する靈です。**2** 実際に新約全体の内容は、インマヌエルです。キリストにあるすべての信者は、キリストの肢体として、この大いなるインマヌエルである団体のキリストの一部分です。**D** 実際的なインマヌエルは、私たちの靈の中におられる究極的に完成された三一の神の臨在としての実際の靈です。彼の臨在は、私たちの靈の

中で、日ごとに私たちと共にあるだけでなく、瞬間ごとに常に私たちと共にあります:**1**彼は、私たちの集まりの中で私たちと共にいます。**2**彼は日々、私たちと共にいます。**3**彼は、私たちの靈の中で私たちと共にいます:**a**今日私たちの靈は、インマヌエルの地です。**b**神が私たちと共におられるので、敵は決してインマヌエルの地を占領することはできません。**4**私たちは、彼の聖なる御言を教えるために共に集まるとき、三一の神の臨在を享受することができます。**5**私たちは、三一の神の臨在としてのその靈を通して、恵みと平安を享受します。**6**その靈が導くことと証しすることは、彼の臨在です。**7**私たちが三一の神の分与を享受するのは、その靈としての彼の臨在を通してです。**E**インマヌエルとしてのキリストと共に生きるために、私たちは彼の神聖な臨在の中にいる必要があります。彼の神聖な臨在は、三一の神の究極的完成である命を与える靈です:**1**キリストと共に生きるために、私たちは依然として生きているのですが、それは単独で自分自身によって生きるのではなく、インマヌエルとして私たちの中で、私たちと共に生きているキリストによって依然として生きています。三一の神は、私たちの外側では、ご自身を私たちの存在の中へと分与するという彼の意図を完成することはできません。ですから、彼が私たちと共にいることは、内側のことでなければなりません。**2**インマヌエルは私たちの命またパースンです。私たちは彼の器官であって、彼と共に一人のパースンとして生きています。私たちの勝利は、インマヌエル、すなわち、イエスの臨在にかかっています。**3**私たちは主の臨在を持っているなら、知恵、洞察力、先見性、物事に関する内なる認識を持ちます。主の臨在は、私たちにとってすべてです。**F**私たちは良き地の実際としてのすべてを含むキリストに入り、所有し、享受しようとするなら、主の臨在によってそうしなければなりません。主はモーセに約束しました、「私の臨在があなたと共にあって、私はあなたに安息を与える」(出エジプト33:14)。神の臨在は神の道、すなわち「地図」であって、神の民に彼らが歩むべき道を示します:**1**私たちは神の建造のためにすべてを含む地としてのキリストを完全に獲得し、所有するために、この原則を保持しなければなりません。その原則とは、神の臨在があらゆる事柄に対する基準であるということです。私たちは何をするかにかかわらず、私たちが神の臨在を持っているかどうかに注意を払わなければなりません。私たちが神の臨在を持っているなら、すべてがありますが、神の臨在を失うな

ら、すべてを失います。**2**主の臨在、主の笑顔が支配する原則です。私たちは主の直接の、直の臨在によって守られ、支配され、管理され、導かれることを学ばなければなりません。**3**円熟した命の、王として支配する面の代表として、ヨセフは主の臨在を享受し、それと共に主の権威、繁栄、祝福を享受しました。**4**モーセは神の心にとても近い、神の心にしたがった人でした。このゆえに、彼は満ち満ちた程度にまで神の臨在を持っていました。**5**使徒パウロは、キリストの目において表現された彼のパースン全体の表示にしたがって、キリストの臨在の中で生き、行動した人でした。**6**「私は若いとき、打ち勝ち、勝利を得て、聖となり、靈的になるさまざまな方法を教えられました。しかしながら、これらの方法はどれも役に立ちませんでした。…主の臨在以外に何も役に立ちません。彼が私たちと共におられることがすべてです」。**G**新約全体はインマヌエルであり、私たちは今やこの大いなるインマヌエルの一部分です。この大いなるインマヌエルは、新天新地の新エルサレムにおいて究極的に完成し、永遠に至ります。新約は、「神われらと共にいます」である神・人をもって開始します。そして、大いなる神・人、新エルサレム、すなわち、「エホバはそこにおられる」をもって終わります。**H**私は51歳で転職する時に、主の臨在に導かれたことを証します。転職の機会が知らされた時、気の小さい私は、「既に50歳を超え、新しい環境に身を置くのは大変なので、転職するのは止めておこう」と考えました。しかし、私がそのように考え、人に話す時、イエスの靈が厳格に禁止するのを感じました。**使徒16:7**彼らがムシヤに来た時、ビテニヤに入って行こうとしたが、イエスの靈が彼らを許さなかった。私は不思議に思いましたが、イエスの靈の導きに従うことを決心しました。主の内側の臨在に頼って、米国本社で7月に面接を受け、9月に入社した後も、「どのような人たちが私を待ち受けているのか？過度な残業や付き合いの飲み会で召会生活が妨げられるのではないか」などの不安が襲ってきました。しかし主の内側の臨在の導きで入社したので、この臨在が私を供給し支え導いてくださると信じる時、力が湧いてきました。**I**私**J**は言います、「私たちは主の臨在を持っているなら、知恵、洞察力、先見性、物事に関する内なる認識を持ちます。主の臨在は、私たちにとってすべてです」。主の臨在が私と共に転職した職場に行ったので、私の内側の不安は消え去り、力と知恵に満たされ、様々な人々の反対や障害を乗り越えて前進し、成功することができました。